



全ては子どもたちのために

共に歩まん

壁面に掲示してご活用ください

令和4年3月10日発行

第33号

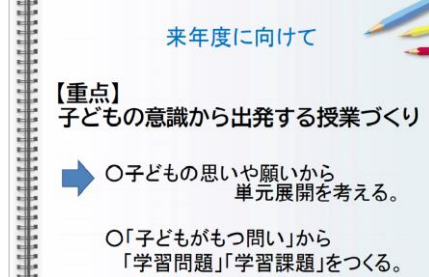
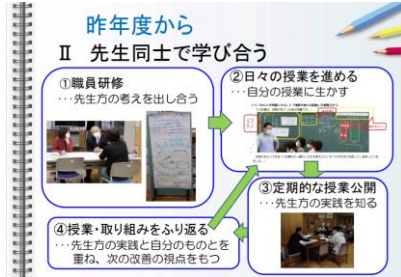
長野県中信教育事務所

←過去の「共に歩まん」はこちら



2月研究推進講座（2月9日） ～今年度の振り返りと来年度に向けて～

【実践発表】「塩尻市立片丘小学校授業改善に向けた取組」



堀内紀子先生

<実践発表：参会者の感想>

- ・同僚性の大切さは本当に実感しています。先生方が同じ視点をもつこと、それぞれの考えを発信すること、子どもの視点に立つこと、どれもとても大切だなと感じました。（小学校の先生）
- ・本校の授業参観旬間は、参加率が高くなく、結局は一人ひとりの意識にかかってくるなあと感じています。ミドルリーダーとしてどう推進していくか、こちらも考えていきます。子どもの問いから授業をつくるなど、共感できる場所が多々ありました。（中学校の先生）

【研修Ⅰ】「自校の取組における成果と課題」の交流

一人一公開授業をするなど、皆で授業を見合って学ぶ場を設けました。

空き時間が少ないということが多く、職員全体で学び合うということが難しかったです。



「〇〇中 授業のスタンダード」を作成して、授業づくりの基本を確認しました。

【研修Ⅱ】「来年度の研究推進に向けて」の意見交換 ～探究的な学びを視点に～

「探究＝総合、特活」という認識が主でしたが、各教科・領域での探究ってどうすればいいのでしょうか？



同僚性を高めることが難しいという現状がありましたが、「繋ぐ」をキーワードに研究を進めたいと思います。

「問い」って何か、「学習課題」はどう据わるのかなど、こういった議論を大事にしていきたいと思います。

<研究推進講座：参会者の感想>

- ・研究内容や成果を全職員で共有するというのを、来年度の課題として工夫していきたいと思った。研究だよりの発行や職員とのコミュニケーション、若い職員との教材研究など、できることから始めていきたい。（小学校の先生）
- ・「探究的な学び」という視点で、どう授業改善をしていくのか、非常に難しい問題だと考えさせられました。本校の研究テーマは「子どもと教師が自ら学ぶ授業」です。このテーマにある「教師も自ら学ぶ授業」とは、どんな授業なのかを具現化することが生徒の「探究的な学び」へと繋がるのではないかと考えました。このことを視点に来年度へ準備を進めていきたいと思います。（中学校の先生）

参加された先生方は、どう学校全体を巻き込んで研究推進をするのかを考えていたよ。「探究的な学び」を実現する授業の具体や、「問いとは何か」を校内で共有するなど、校内の先生方が同じ視点をもって授業改善することが大切だね。

